柳瀬川と西原斜面林周辺の自然

柳瀬川と低地

志木地区の北西部分を占める低地は、柳瀬川が台地を削った谷間に上流からの土砂が溜まってできたもので、水田として使われていましたが、1970 年代の終わりから館地区で「志木ニュータウン」の建設が始まり、現在見られるような緑の多い住宅団地に変わりました。

柳瀬川は新河岸川の最大の支流で、武蔵野台地で最も標高が高く自然が豊かな狭山丘陵と志木を結んでいる自然の回廊です。かつて大変汚染されていた時代もありましたが、現在は上流部の下水道の普及に伴い水質はよくなってきています。ただ、普段の水の大半は清瀬市にある清瀬水再生センター（下水処理場）の放流水で、川の水質はこの放流水の水質に左右されています。水質の改善と共に、一旦いなくなった魚などの生き物が復活しています。新河岸川・隅田川を経由して海ともつながり、海までの間に堰が無いため、海との間を行き来する生き物が多いのも特徴です。また、河川敷ではサギ・カモ類などの水鳥を始めとした野鳥も多く見られます。

志木ニュータウン内の街路

柳瀬川（富士見橋から下流を見る）

ホソヘリカメムシ

西原の森

西原ふれあい第三公園の斜面林は、昔からの大塚集落の北西側にあり、かつて崖線に沿って連なっていた斜面林の名残です。低地にあった水田に面し、斜面の下には湧水があり、志木駅方面から流れてくる野火止用水の分水路と一緒になっていました。

斜面林は台地上の幸町一帯で実施されていた区画整理事業の区域に含まれ、一時は消滅する恐れもありましたが、公園に位置付けられ開発から逃れました。

南側の部分は大幅に造成され、新たに植樹されていますが、線路に近い部分は昔からの樹林が保全されています。シラカシ、ケヤキ、ムクノキ、エノキの大木を中心とした樹林で、低木ではコクサギが多いのが特徴です。長らく手入れがされず、アオキなどの低木やタケ、ササなどが茂り、入るのも困難な時期がありましたが、現在はエコシティ志木により手入れ作業が行われ、樹林内では希少な野草が復活しています。

西原ふれあい第三公園のあずまや広場

西原斜面林下の湧水

メジロ